

評価者	まちづくり景観部長	大場 将光
-----	-----------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	総合交通	施策の方針	道路・交通体系の検討
目標とすべきま ちの姿	地域の実情を考慮した都市計画道路の見直しが行われました。 自動車利用を抑制する等の交通需要マネジメント施策が進み、交通環境の改善が進んでいます。 地域住民、関係機関と協働し、歩行者を優先した交通体系が構築されたことで、快適で安全な市民生活が確保されています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	20.2%	平成27年度	19.0%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

仕事の 効果	お金の使い方			お金の使い方			<p><妥当性の分析></p> <p>お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と答えた割合が平成26年度は31.0%と選択肢の中では最も多く、次に多いのはお金の「足りない」、効果「不十分」の22.0%であった。しかし、平成27年度では、お金の「足りない」、効果「不十分」が28.2%、お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と答えた割合が26.3%と、市民意識では、お金の足りない、効果不十分という意識が強まっている。</p> <p>お金の使い方と仕事の効果両方が「ちょうどよい」と答えている人の割合は、施策の方針等全54件の中では最低に近い値となっており、経年的に見ると、さらに低くなっている。</p> <p>予算を充実させ、本事業にしっかり取り組み、市民生活を向上させていく必要がある。</p>		
	必要以上の効果	1.6%	1.0%	0.2%	必要以上の効果	0.7%		0.6%	0.3%
	ちょうどよい	0.5%	31.0%	0.7%	ちょうどよい	1.3%		26.3%	0.4%
効果不十分	6.9%	9.2%	22.0%	効果不十分	6.0%	10.2%	28.2%		

平成26年度

平成27年度

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成26年度	34.9%	32.7%	7.1%	25.3%	100.0%
平成27年度	42.2%	27.0%	5.6%	25.2%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成27年度の目標

パークアンドライド及び鎌倉フリー環境手形の周知に努め、交通関係事業者と調整しながら、利用数の増加を目指す。鎌倉市交通計画検討委員会を開催し、鎌倉地域の地区交通計画策定に向けた検討を引き続き進める。特別委員会を設立し、(仮称)鎌倉ロードプライシングについて議論を進める。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
		平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	事業内容	予算規模
まち-04	交通環境整備事業	2,683	2,476	18,583	18,622	2.1	2.1	b	A
まち-05	交通体系整備事業	14,971	11,712	32,386	30,164	2.3	2.4	b	A

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】
 パークアンドライド及び鎌倉フリー環境手形の利用促進を図るため、観光パンフレットに案内を掲載し、PRを行ったほか、寺社及び店舗から引き続き、協賛の協力を得るように努めた。(まち-04)
 市民自らがこれまでの自動車交通に関する考え方や利用方法を見直すべきと考えた市民憲章(案)の検討を行った。ロードプライシングを実施するにあたり課題となっている法的な問題や課金方法等を検証・検討した。(まち-05)

【実施できなかった事業とその理由等】

(4) 平成27年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

パークアンドライドの利用促進に向け、寺社及び店舗から引き続き、協賛の協力を得た。
 平成27年度パークアンドライド等の利用数が、平成26年度より増加した。
 鎌倉地域の交通渋滞の解消に向け、「鎌倉市交通計画検討委員会」を1回、同委員会専門部会を5回開催し、自動車交通の抑制策(ロードプライシング)において、市民自らがこれまでの自動車交通に関する考え方や利用方法を見直すべきと考えた市民憲章(案)の検討を行った。また、法的な課題や課金方法を検討する特別委員会を開催し、法的な課題や課金方法等を整理した。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

パークアンドライドの実施箇所が国道134号沿線のみとなっていることから、今後は、他のルートからの鎌倉地域への各流入口での実施の可能性について引き続き検討する。
 公共交通と徒歩による観光を促し、自動車から公共交通への転換を図るため、鎌倉フリー環境手形の利用できる交通機関の拡大や電子化を検討する。
 鎌倉地域の交通渋滞の解消に向け、自動車交通の抑制策等の検討を継続して行っていく。
 (仮称)鎌倉ロードプライシングについては、鎌倉市交通計画検討委員会等で検討された市民憲章(案)を市民に周知し、浸透を図っていく。
 ※都市マスタープランの見直し終了後、交通マスタープランの改訂を平成28年度から取り組む必要がある。

4 平成28年度の目標

パークアンドライド及び鎌倉フリー環境手形の周知に努め、交通関係事業者と調整しながら、引き続き利用数の増加を目指す。
 鎌倉市交通計画検討委員会等を開催し、鎌倉地域の地区交通計画策定に向けた検討を引き続き進めていく。
 特別委員会において、(仮称)鎌倉ロードプライシングの実施に当たり課題となっている法制面や課金方法等といった問題を一つ一つ整理し、解決を図る。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ)

整理番号	事業名		単位					指標の傾向	備考
指標の内容	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31		
当該指標を設定した理由	目標値								
	実績値								
	達成率								

参考 前年度外部評価結果への対応

<p>鎌倉市民評価委員会からの指摘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車交通の抑制策(ロードプライシング)の実施に向けては、現実的な法制度や課金の技術的方法、事業費の確保、実施主体等の課題にむけて時間がかかると思われる。 ・新規循環バスの社会実験では本格運行に向けて、路線バス再編や踏切道改良、交通誘導員の複数配置等が課題である。 	⇒	<p>指摘への対応、コメント等</p> <p>自動車交通の抑制策(ロードプライシング)の実施に向けては、現実的な法制度や課金の技術的方法、事業費の確保、実施主体等の課題があるが、関係省庁がメンバーとなっている「鎌倉市交通計画検討委員会・特別委員会・幹事会」を通じて問題を一つずつ解決していくように努める。</p> <p>新規循環バスの社会実験では本格運行に向けた具体的な課題把握ができたため、それを踏まえながら交通事業者等と協議を行っていく。</p>
---	---	--

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・鎌倉市の長年の課題であり、果敢に取り組もうとしている。
- ・16年間にわたって、「交通計画検討委員会」が長期間開催できず20の施策に対して実質的には新たな検討を加えてこなかったが、検討を再開したことは評価できる。
- ・総合交通分野と道路整備分野の取組を整理し、明確に区別した。
- ・鎌倉フリー環境手形の利用促進に向けて観光パンフレットに案内に掲載するなど、他分野とも連携を図って改善に向かおうとしている。

		評価の内訳								委員会の評価
取組	↗	0	↘	3	→	5	⇒	↘		
効果	○	0	△	4	—	4		△		

《課題》

- ・交通環境の改善が一向に行われていない点が市民の評価を下げていると思われ、ロードプライシング、鎌倉フリー環境手形、新規循環バス等、事業実施につとめているが成果としては見えてこない。市民はあきらめムードになっている。ロードプライシングを実施するにあたり課題となっている法的な問題や課金方法等を検証・検討することが求められる。
- ・朝比奈方面におけるパークアンドライド駐車場用地について、横浜市域内の民有地を現地調査しNEXCO東日本管理用通路の使用の可能性を検討とあるが、その結果が分からない。
- ・「目標とすべきまちの姿」にある「歩行者を優先した交通体系の構築」に関する取組が見受けられない。

《提言》

- ・観光客が増加する土、日は市民は身動きができない状態であり、思いきった施策が必要であるとともに、具体化が可能などころから具体化していくべきである。そして、施策によっては終わりを決めた上で、検討を進める時期が来ている。市民理解の醸成に時間を掛けてほしい。
- ・パークアンドライドは観光客が最も訪れるシーズンには行っていないため、効果が望めない。海水浴シーズンなどにも適用すべきである。
- ・市民満足度は徐々に向上している。引き続き施策コストとの効率性を考えながら施策を実行していく必要がある。
- ・鎌倉フリー環境手形の指標を設定すべきである。